

# 桐生大学紀要投稿規程

(平成18年1月23日改正, 平成18年4月1日より施行)

(平成20年6月24日改正, 平成20年7月1日より施行)

(平成21年5月26日改正, 平成21年6月1日より施行)

(平成22年4月27日改正, 平成22年5月1日より施行)

(平成25年7月23日改正, 平成25年8月1日より施行)

(平成28年2月09日改正, 平成28年4月1日より施行)

## I. 本誌の内容

本誌は桐生大学および桐生大学短期大学部における研究活動が反映された自然科学系, 人文・社会科学系, 芸術系の論文等を掲載する学術研究発表用の機関紙であり, 年1回発行する。内容は総説, 原著, 研究ノート, 諸報告(事例報告, 活動報告, 資料紹介, 論評, 技術紹介, 芸術作品など)の4部門に区別し, その選択は投稿者の判断による。投稿原稿は和文または英文とし, 未発表のものに限る。口頭発表済みのものは脚注に発表学会名を明記する。

## II. 投稿資格

1. 原則として本学の専任教員に限る。共同研究の場合には必ず本学の専任教員が含まれていること。但し, 紀要委員会で認める場合にはこの限りではない。
2. ヒトを対象とした研究論文は, 世界医師会総会 (world medical assembly) において承認されたヘルシンキ宣言 (1964年承認, 2013年修正) の精神に則り, 「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」(平成26年文部科学省・厚生労働省) 及び「疫学研究に関する倫理指針」(平成25年4月一部改正文部科学省・厚生労働省), 「臨床研究に関する倫理指針」(平成20年厚生労働省) 等を遵守して行われたもので, 倫理審査委員会等の審査を受けたものでなければならない。また, 動物を用いた研究についても「研究機関等における動物実験等の実施に関する基本指針」(平成18年文部科学省) 等を遵守し, 動物実験委員会等の審査を受けたものでなければならない。

## III. 投稿原稿の種類

1. 総説 Reviews : 特定のテーマについて著者の研究成果に, 多面的・包括的な文献的考察を加えられ, 今後の学問の発展に有用なもの。原則として編集委員会が依頼する。
2. 原著 Original papers : 独創的な研究の視点に基づき, 確かな方法論を用い, 新しい知見があり, 論理的かつ文献的な考察が加えられたもの。
3. 研究ノート Notes : 方法, 結果, 考察の内容において原著論文には及ばないが, 有用性, 発展性に富んだ萌芽的なもの。
4. 諸報告 Reports : 各種分野において示唆に富む事例の検討結果 (各分野の実践報告や調査資料など), 桐生大学および桐生大学短期大学部の諸活動の報告, 教育・研究分野に役立つ資料の紹介, 論評, 技術紹介, 芸術作品など。

## IV. 投稿方法

1. 投稿原稿の提出 : 完全な形の原稿を紀要委員会に提出すること。9月最後の平日締め切り。
2. 投稿原稿の書式については下記の「V. 投稿原稿の形式」に従うこととし, 著しく指定の形式を逸脱している原稿は受理しない。
3. 投稿原稿チェックリストに必要事項を記入あるいは, 確認した項目にチェックを記入して提出すること。
4. 原稿は査読を行い, 投稿原稿の採否と投稿原稿の種類は査読者の意見を加味し紀要委員会が行う。
5. 採択された論文等の著者校正は1回とし, 原則として投稿原稿は返却しない。

6. 掲載順序は「Ⅱ. 投稿原稿の種類」に掲げる順とし、それぞれの原稿の提出順とする。
7. 別冊は30部まで無料とし、超過部数については著者負担とする。またカラー印刷等の特殊印刷は原則実費とする。

## V. 投稿原稿の形式

### 1. 原稿作成と提出

- 1) 原稿の投稿方法は電子投稿とする。以下に定められた書式で、Microsoft社のWordを用いて作成した原稿(図表も含む。図表は最終的にはWordに貼付することとする。各1部で可)は、電子メールの添付ファイルで編集委員会事務局(bulletin@kiryu-u.ac.jp)へ送る。なお、図表はWord以外のソフトを使用することができる。
- 2) 原稿のマージンは上下左右とも2.0cmとし、和文、英文共にフォントサイズは10.5pを用いて、和文原稿は25字45行の横書き、英文原稿は55字52行で左端に行数を挿入する。
- 3) 投稿の際には、A4用紙に打ち出した原稿1部も同時に提出する。

### 2. 原稿の長さ

総説は刷り上がり10ページ以内、原著と研究ノートは刷り上がり8ページ以内、その他は刷り上がり4ページ以内を原則とする。

### 3. 原稿の様式

- 1) 原稿の第1ページには、和文と英文の表題、著者名、本学関係者以外の場合にはその所属を書くこと(本学関係者の場合には所属は不要)。なお表題のみ14pのフォントサイズを用いる。共著者の所属が本学関係者以外の場合には、共著者の右と、その所属の冒頭にアスタリスク(\*, \*\*)を上付きでつけ区別する。また第1ページには投稿原稿の種類と希望別冊数を書くこと。

- 2) 第2ページからは投稿原稿の種類により異なる。

①総説、原著、研究ノート：第2ページには和文原稿なら600字以内の要約と5個以内のキーワードを、英文原稿の場合には250語以内の要約(Abstract)と5個以内のキーワード(Keywords)を記載する。第3ページからは本文(はじめに、方法、結果、考察、謝辞の順)、引用文献、図表とその説明(英文が望ましい)の順に記載する。図表の大きさは、縦24cm以内、横8.5cm又は17.5cmとし、写真等で提出する事も可能とする。最終ページには、和文原稿なら英文の、英文原稿なら和文の表題、要約(Abstract)とキーワード(Keywords)を記載する。

②諸報告：第2ページから本文とし、内容に沿った形で記述、記載する。  
要約とキーワードは付けない。図表については前項に準ずる。

- 3) 原稿中の単位は国際単位系(SI)に準じ、数字は算用数字を用いる。外国語は原字又はカタカナで書く。なお本文や引用文献で引用する外国人名は外国語表記のまま記載する。
- 4) 引用文献リストは下記の記載にならない、本文中に引用した順に並べ、本文中の引用箇所には該当番号に右方カッコを付けて行間に上付きで記載する。本文中に著者名を記す場合、2名まで併記し、3名以上の場合には最初の著者名に“ら”を付け他は省略する。文献リストには2名まで記載し、3名以降は省略し“ら”又は“et al.”を付けるものとする。

#### 記載例

雑誌の場合：著者名：表題名. 雑誌名, 巻(号)：ページ(始まりと終わりをハイフンでつなぐ), 年号.

- 1) Closs S. J., Cash K. et al. : Cues for the identification of pain in nursing home residents. Int. J. Nursing Studies, 42(1) : 3-12, 2005.
- 2) 小出元紀：緑茶カテキン製品の種類と用途適性. 食品と科学, 47(6) : 84-87, 2005.

単行本の場合：著者名：表題名. 発行所(所在都市), 版号, 引用頁, 発行年.

- 3) Ghadially F.N. : Ultrastructural pathology of the cell and matrix. Butterworths (London), 4th Edn., 345-355, 1997.
- 4) 樋口陽一：憲法. 創文社(東京), 57-78, 1998.

複数の著者からなる単行本からの引用の場合：章の著者名：章の表題名. 本の編集者名. 本の表題名. 発

行所（所在都市），引用頁，発行年．

5) Weinstein L., Swartz M.N. : Pathologic properties of invading microorganisms. In : Sodeman W. A. Ed. Pathologic Physiology. W.B. Saunders (Philadelphia), 457-472, 1974.

6) 木下 亮：時代の転形と若きゴヤの彷徨．大高保二郎，雪山行二編．NHK プラド美術館．第5巻 革命と動乱の画布．日本放送出版教会（東京），7-34, 1992.

電子媒体からの引用の場合：インターネットサイトの利用は，技術紹介と資料紹介に限る．この場合は，サイト名とアドレス（Uniform Resource Locator）を簡潔かつ明確に記載するとともに，アクセスした年月日も付記すること．

7) Nutrition Guide published by the U.S.D.A, [http : //www.choosemyplate.gov/](http://www.choosemyplate.gov/) （2016年3月1日アクセス可能）．

5) 英文（和文論文の Abstract や図表の説明を含む）は，投稿前にそれぞれの専門分野の英語に精通した人（可能であれば native speaker）の校閲を受けるものとする．

## VI. 著作権

本誌に掲載された論文等の著作権は桐生大学および桐生大学短期大学部に帰属する．

## VII. 原稿提出先

〒379-2392 群馬県みどり市笠懸町阿左美606-7

桐生大学および桐生大学短期大学部 紀要委員会

電子メールの添付先

紀要編集委員会事務局（[bulletin@kiryu-u.ac.jp](mailto:bulletin@kiryu-u.ac.jp)）